

## 1 養老孟司の著書「自分の壁」のメタメッセージ

- ・現代は情報過多だとよく言われます。情報過多とは身に付かない情報が増えていくことです。換言すれば、知っていても役に立たない情報です。ネットに入力して検索をクリックすれば、大抵のことなら答えのようなものが沢山出てくる。しかし、さほど意味のない知識が多いのです。

例えば「 $2a$  マイナス  $a$  は？」数学の正解は「 $a$ 」ですが、数学とは別のルールでは  $2a$  から  $a$  を取れば「 $2$ 」になるのです。

- ・メタメッセージとは、それ自体が直接示していないが、結果的に受け手に伝わってしまうメッセージのことです。

著者の話から私個人が思い付く話をすれば、「最近の新聞を見れば、安全な原発の再稼働のことばかりです。つまり、再稼働以外に重要なことはない」というメタメッセージになっているということです。即ち新聞の読者は知らず知らずのうちに、「原発再稼働以外に重要なことはない」というメタメッセージを受取ってしまうということです。

問題は、メタメッセージは受取る側が自分の頭でつくってしまうこと。自分の頭でつくったものであり、自分の意見だと思ってしまう。無意識のうちにすりかわってしまうということ。

「自然食だから安全」とか「規制基準をクリアーしているから再稼働しても安全だ」とか、その前提条件は飛んでしまっただけが自分の頭にすりこまれてしまう。もしかして「安全神話」はこうして生まれるのでは？

## 2 「21世紀の資本」の著者トマ・ピケティ教授が東大生らに講義

「公平な社会づくりを」と説いている。

- ・学生の質問「幸運にも良い教育を受けている我々は何をすべきか」に対して、親の所得に関係ない公平な社会をつくってほしい。私の本はそのために書かれたものだ」と答えている。
- ・同氏の著書で、「預金や株式、不動産などの純資産を持つ人に資産額に応じた税金を世界共通で課すよう提言」している。即ち、「富の集中を是正しないと格差社会に戻る」ということ。  
従って、「一部の資産にしか課税されない相続税よりも、保有する株や不動産に税金を課す累進資本課税の方が富の集中を回避できる」という。
- ・さらに若者に利する税制改革が必要。若い中低所得層の税を引き下げるべきだと語る。
- ・また消費増税については日本の成長に対して良い結果を生んでいないと否定的な見方をしている。

以上